

卒業研究における「やる気」の要因分析 — 調査と観察による検討 —

長崎 雅子・若崎 淳子

Factors Related to the Motivation of Student Nurses in their Graduation Reserch — From an Investigation and Observations by Teacters —

Msako NAGASAKI and Atsuko WAKASAKI

概 要

本研究は、看護短大生の卒業研究における「やる気」に影響した要因を、学生に行った調査と教員の観察をもとに分析、考察を行った。その結果、「やる気」を促進した要因は、『交流』、『有効感』、『自己認識』であった。「やる気」の低下に影響した要因は、『臨地実習』、『関心の転化』、『休暇』、『健康状態不良』、『自己認識の低下』、『知識の不足』であった。

学生の「やる気」と教員が観察した「やる気」を比較した結果、教員は学生の肯定的な言葉と自発的・積極的姿勢を「やる気」として観察していた。教員が「やる気」と観察した学生の肯定的な言葉、自発的・積極的姿勢は、調査から得た学生個別の「やる気」と一致していた。しかし、外部から観察しにくい学生の潜在的な「やる気」については、教員は「やる気」なしと観察していた。

キーワード：卒業研究, やる気, 要因, 看護学生, 看護教員

I. はじめに

殆どの教員は学生に主体的学習を期待している。特に、卒業研究は3年間の学習の総まとめに位置づけられており、学生の自発性・積極性に基づいた主体的な取り組みによって学習が進行することを求めている。しかし、実際には、学生は臨地実習において、問題解決法を用いた科学的思考を看護過程として展開しているが、研究となると初めての体験であり、研究の概念および方法についての戸惑いが多い。また、カリキュラム上実習科目と平行して研究を実施しなければならないため、学生の負担も大きい。

従って、教員が期待するような主体性に基づいた取り組みとなるには、学生の「やる気」を喚起することが重要である。

東は「やる気」は主観的な意欲であり、内発的である¹⁾ことを述べている。教員が学生の「やる気」の程度を適切に把握し、「やる気」を喚起するような方法で指導が実施できれば教育効果として意義深い。

「やる気」についての先行研究では、臨床実習での要因の分析²⁾³⁾⁴⁾、やる気の特徴⁵⁾⁶⁾、やる気の変化⁷⁾、やる気を起こさせる指導法⁸⁾に関する報告はあるが、学生の主観的な「やる気」の程度と他者による観察によって得られた

「やる気」を双方向から比較検討したものは見当たらない。教員が学生の「やる気」による主体的学習を期待するなら、まず、学生の「やる気」を適切に把握することができなければならない。そしてその上で、「やる気」を左右する要因を考慮し、変化のきっかけを探索することが必要となる。本研究では、卒業研究における学生の「やる気」とそれに影響した要因を、学生に行った調査票と教員が記録した卒業研究日誌から分析し、関連性を検討した。

Ⅱ. 卒業研究の概要

学生4名によるグループ研究であり、2名の教員が指導を担当した。学生と教員は原則として毎週教員の研究室に集合し、研究についての基礎的な講義、意見交換、文献抄読等を行った。卒業研究は2単位(60時間)で、3年次の4～12月の間、週1コマ(90分)で実施されており実習と平行して行われている。

Ⅲ. 研究目的・方法

1. 研究目的

卒業研究における学生の「やる気」の変化とそれに影響した要因を分析する。

2. 研究方法

- 1) 対象：学生4名の「やる気」の調査票および教員が記録した卒業研究日誌。
- 2) 期間：平成12年4月～10月
- 3) 方法

石桁らが開発した「長期間のやる気の調査用紙」⁹⁾をもとに「やる気」調査票を作成し(資料1参照)、研究原稿の原案ができた10月11日に学生に配布して記入を依頼した。調査票は、学生が書きやすいように、卒業研究の進度、実習サイクルを入れた。「やる気」は石桁の基準を用い、看護短期大学に入学後、最高にやる気が高かった時の感じを100%、最もやる気がなかった時の感じを0%と考えて、それぞれの時点でのやる気を記入した。学生の「やる気」度の50%を境界線として50%以上をやる気が高いとし、50%以下を「やる気」が低いとした。

学生には研究の主旨と、調査票は研究データ

として公表することを説明し同意を得た。

「やる気」の促進要因については、研究の材料を臨床実習から得ているため、内田らがマックレランドの4つの動機から、達成・親和・権力の3つの動機をもとに考案した¹⁰⁾ ①学習の成果の実感、②援助の成果の実感、③グループメンバーの態度や行動、④患者や家族の反応、⑤臨床スタッフの態度や行動、⑥教員の態度や行動の6つの要因を用い、該当するものを選択することとし、具体的内容は記述式とした。阻害因子については記述式とした。

4) 分析

4名の学生の「やる気」の調査をもとに、「やる気」の促進要因と阻害要因を、同質あるいは関連性によって分類した。

また、教員が記録した卒業研究日誌から、学生個別の主観的情報(subjective以下S情報と称する)と具体的な行動を整理した。次に学生の調査票と教員が観察した内容とを比較し、学生の「やる気」の変化との教員の観察の関連性を検討した。

Ⅳ. 研究結果

学生の主観的「やる気」を調査した内容と、教員が観察し日誌に記載していた学生の行動を図2に示す。

1. 学生の「やる気」の変化と影響した要因

学生Aはデータを収集する時期の実習方法が他の3名の学生と異なり、実習で得たデータを研究に活用することができなかったため、卒業研究は他の3人のデータで行った。学生Aの「やる気」を高めたのは、①グループメンバーの態度・対応やメンバーとのやりとり(話し合いにより整理ができ理解ができた)、②学習の成果を実感した(研究の課題が達成できた)、③教官の態度・対応や教官との関わり、④自分の役割がみえた・役割があるであった。学生Aの「やる気」の低下に影響した要因は、①実習が忙しい、実習がうまくいかない、②自分の役割が見いだせない、③関心が他のことに向いている(模擬試験、バイト)、④夏休み期間中、⑤体調が悪いであった。学生Aの特徴は、研究のスタート時点での意欲が高いことであった。

学生Bの「やる気」を高めたのは、①学習の成果を実感した(研究目標が達成できた)、②教官の態度・対応や教官との関わり、③グループメンバーの態度・対応やメンバーとのやりとりであった。「やる気」の低下に影響した要因は、①5月の連休後、実習のインターバル前、夏休みの前半から中期まで、②新しい実習が始まった時期、③体調が悪い時であった。学生Bの特徴は、研究のテーマについての話し合い、インフォームドコンセントについての文章作成、データの収集、データの検討、データの整理、文章の作成等、直接的な研究活動を行っている時や思考活動をしている時に意欲が高かった。

学生Cの「やる気」を高めた要因は、①学習の成果を実感した(研究で考えたことが実習に生かせる、研究の課題が達成できた)、②教官の態度・対応や教官との関わり、③グループメンバーの態度・対応やメンバーとのやりとりであった。「やる気」の低下に影響した要因は、研究前半期に集中しており、①研究が難しく思える、自分にできるか自信がない、研究の概要が理解できないなど研究に対する不安であった。学生Cの特徴は、阻害因子として①実習記録、実習の不安、②模擬試験、夏休みなどをあげているが、それが「やる気」の低下につながっていないことであった。

学生Dの「やる気」の上昇に影響したのは、①学習の成果の実感した(研究で検討したことが実習で成果を発揮した)、②援助の成果を実感した(研究で気づいたことを実習で行い、患者から喜ばれた)、③教官の態度・対応や教官との関わり、④グループメンバーの態度・対応やメンバーとのやりとりであった。「やる気」の低下に影響したのは、①関心が他に向いている時であり、グラフのカーブが低下するのに影響しているのが、実習記録、実習場における患者との関係等実習に関係したことであった。学生Dの特徴は、「やる気」の促進および低下に実習が直接関連していた。

2. 「やる気」の要因

1) 「やる気」を高めた要因

(1)学生Aの②、学生Bの①、学生Cの①、学

生Dの①②は、学生が自分が行ったことの効果および目標の達成を実感しており自己の能力と深く関係していることから、『有能感』とした。

(2)学生Aの①③、学生Bの②、学生Cの②③、学生Dの③④はグループメンバー・教員との相互作用による交流と考え、『交流』とした。

(3)学生Aの④、学生Bの①は自分自身の存在感の認識と関わっていると考え、『自己認識』とした。

2) 「やる気」を低下した要因

(1)学生Aの①、学生Bの②は『臨地実習』とした。

(2)学生Aの③、学生Dの①は『関心の転化』とした。

(3)学生Aの④、学生Bの①は『休暇』とした。

(4)学生Aの⑤、学生Bの③は『健康状態不良』とした。

(5)学生Aの②は『自己認識の低下』とした。

(6)学生Cの①は『経験・知識の不足』とした。

3) 教員が観察した学生の「やる気」の変化

教員は2人共、研究開始直後3回目までは学生の意欲が感じられないと観察していた。この時期の学生のS情報はいずれも肯定的な内容ではなく、学生の行動は静的であった。また、夏期休暇中においては、学生全員の意欲が低下していると感じていたが、学生4名中2名が意欲の低下を示しており、2名は低下を示していなかった。夏期休暇明けの9月の2回の授業時間は、学生の意欲は低下の傾向は見られるが低下の状態ではなかった。しかし、教員は意欲がないと感じていた。

教員は学生が肯定的な反応を示した時、自発的・積極的な行動が見られた時に「やる気」があると感じていた。学生の個別的な意欲と教員が観察した肯定的な反応とは一致していたが、学生の～ねばならないという意志にかかわる反応は、必ずしも「やる気」とは一致していなかった。

V. 考 察

1. 学生の「やる気」に影響した要因について

学生の「やる気」を高めた要因は、有能感、交流、自己認識であった。デシは「やる気」は内発的動機づけであるとして、①交流、②有能感、③自律性の3点を内発的動機づけの構成要素として述べている¹¹⁾。学生の「やる気」の調査からは、すべての学生がグループメンバー・教員の態度、関わりを促進要因として取りあげていることや、『否定されない』、『リラックスする』、『研究以外のことも話せる』などのS情報を基に考えると、学生・教員の相互作用により、マズローの基本的欲求の承認欲求、帰属欲求¹²⁾がグループに所属することにより満たされたと考える。そして、高次の成長欲求である知識獲得へとつながり、研究の材料を得た臨地実習や研究活動を支えたと考えられる。そしてまた、学生は実践したことをグループに持ち帰って、意見交換をするなかでその実践したことの有効性を実感し、それが自信につながり、自己の『有能性』と結びついて「やる気」を高め、維持させたと考えられる。卒業研究は、スタート時点での2回の講義を除いては、学生の決定に基づいて進行した。学生達は自己決定により自己認識が高まり、自己認識の高まりが実習への取り組みを自主的・積極的姿勢へと導き、実習で有効であることを確認したことで満足感を覚え、有能感へと発展した。また、有能感は、学生の心のなかに原因-結果の因果律を生じることとなり、自己統制、つまり自律性につながったと考えられる¹³⁾。卒業研究における学生の「やる気」の促進要因はデシが述べる①交流、②有能感、③自律性と一致した。

「やる気」を低下させた要因として実習がある。卒業研究はカリキュラム上実習と平行して行われており、学生は実習の進度、特にケアプランができるまでの期間は「やる気」が低下したり、低下の傾向にある。また、1週間に4日は実習があるため、学生によっては研究よりも実習にかかる比率が大きくなり、研究の取り組みにマイナスの影響及ぼしていたが、実習が順調であるときはプラスの影響を及ぼしていた。

また、実習は3週間の実習よりも2週間の短期の実習において「やる気」の低下が見られることから、短期の実習が学生に与える負担が大きいことが推測できた。

『関心の転化』、『健康状態不良』は一時的な低下の要因であり長期間持続するものではなかった。研究スタート時点では、夏期休暇中に研究が予定以上に進むことを学生、教員共に期待したが、結果としては気持ちがゆるみ低下する人と維持する人とが半々であった。

研究初期における不安は当然予想されることであり、学生が「やる気」を持つように、知識面、情緒面で学生を支えると同時に、教員は学生が関心を持ち挑戦することができるように指導方法を工夫する努力が必要であることが指摘された。

2. 教員の観察による学生の「やる気」

教員が観察した学生の「やる気」と調査による「やる気」を比較すると、教員は学生が課題に積極的姿勢で取り組む行動が見られた時、および肯定的な言葉を述べた時に「やる気」があると判断しており、これは学生の「やる気」の高い部分と一致していた。一方、学生の行動が静的な時、あるいは教員が期待するレベルまで課題が進行していない時には、「やる気」がないと判断していた。しかし、教員が「やる気」がないと感じた研究のスタート時点では、3名の学生が「やる気」があったとしている。夏期休暇中も2名の学生は「やる気」があり、夏期休暇後も学生の「やる気」は低下の傾向は見られるが、低下には至っていない。この差が生じた理由のひとつは、個々の学生の反応を観察しているつもりが、グループダイナミックスの影響により、教員の見方がマイナス方向に片寄ったと考える。また、行動が静的で内部にエネルギーを秘めたまま、外部から変化が観察出来ない時は、「やる気」がないと判断する危険を示している。

学生が「ねばならない」と表現していることについては、教員は「やる気」があると捉えているが、学生の「やる気」を見てみると、ある人とない人が半々であった。これは、マックレラ

ンドが達成動機の権威として述べている「目上の人との関係、役割意識やそれに基づく義務感に規定される¹⁴⁾」ことにつながる内容であると考えられる。しかし、今回研究協力を得た学生の場合、これに繋がる内容として捉えることもできるが、自分達が計画した目標を達成する認識に関係しているとも考えられる。

VI. ま と め

学生の「やる気」に影響する要因を、学生の「やる気」の調査と教員が観察した内容を基に分析、考察した結果以下のことが明らかとなった。

- 1) 学生の「やる気」を促進する要因は、『有能感』、『交流』、『自己認識』であり、これらはデシの述べている内発的動機づけの3点の構成因子である交流、有能感、自律性と一致していた。
- 2) 学生の「やる気」の低下に影響する要因は、『臨地実習』、『関心の転化』、『休暇』、『健康状態不良』、『自己認識の低下』、『知識の不足』であった。
- 3) 学生の「やる気」の調査と教員が観察した「やる気」の比較から、教員は学生の肯定的言葉と自発的・積極的姿勢を「やる気」として観察していた。また、教員が観察した学生の肯定的な言葉や自主的・積極的姿勢は、学生個別の「やる気」と一致していた。一方、教員は学生の潜在的な「やる気」は「やる気」なしと観察していた。

今後の課題としては、学生の「やる気」の精密性を高めるために、測定時期を検討する必要がある。また、外部から観察しにくい学生の潜在的な「やる気」を把握する方法、および学生の「やる気」を考慮した指導方法の検討が必要である。

引用文献

- 1) 東 洋, 柏木恵子編: 教育の心理学, 有斐閣, 147-193, 1989.
- 2) 内田宏美, 荒川千登世, 稲本 俊: 外科系臨床看護実習における「やる気」の程度とその要因, 京都大学医療技術短期大学部紀要, 第16号, 45-55, 1996.
- 3) 上杉純美: ある看護大学の学生を対象とした基礎看護実習における学生のやる気の原因, 愛媛県立医療技術短期大学紀要, 第8号, 161-166, 1995.
- 4) 氏平美智子, 島上康子: 臨床指導者の言動が看護学生の学習効果・意欲に及ぼす影響, 第25回日本看護学会集録(看護教育), 24-29, 1994.
- 5) 長鶴美佐子: 看護学生の臨床実習における「やる気」—「やる気」を感じた状況に關与した人物とその内容の分析から—, 東海大学短期大学紀要, 第30号, 61-66, 1996.
- 6) 三重野英子, 河野保子, 菅 啓子: 臨床実習における学生のやる気に関する一考察, 愛媛県立医療技術短期大学紀要, 第5号, 157-167, 1992.
- 7) 川畑安正, 岩本圭子, 宍田美智子: 看護学生のやる気の変化—主観的なやる気の変化をグラフ化する試み—, 看護展望, 15(4), 62-67, 1989.
- 8) 戸田好笑, 中辻千穂: 実習における学生のやる気への臨床指導者の関わりの実態調査, 第19回日本看護学会集録(看護教育), 240-242, 1988.
- 9) 岩崎重剛: グラフ式やる気の調査, パワー社, 7-15, 1985.
- 10) 前掲²⁾
- 11) E. L. デシ著, 安藤延男, 石田梅雄訳: 内発的動機づけ実験社会心理学的アプローチ, 誠信書房, 3-141, 1980.
- 12) A. H. マズロー著, 小口忠彦訳: 新版人間性の心理学—モチベーションとパーソナリティ—, 産能大学出版部, 55-116, 1995.
- 13) 前掲¹¹⁾ 60-66.
- 14) 前掲¹⁾

卒業研究日	4月19日	4月26日	5月10日	5月17日	5月24日	5月31日	6月7日	6月14日	6月21日	6月28日	7月5日
卒業研究進捗	講義 卒業研究の目標等	講義 看護研究の概要	宿題への取り組み	宿題の検討	「知りたいこと」の話し合い、 「看護場面での敬語」について 文献検索	研究課題を明らかにする	研究計画書の作成、研究方法の決定、 テキストの購入、I・Cの検討	プロセスレコードの記載データ収集	データの確認・検討 追加 記録様式の	データの確認・検討	データの確認・検討
実習サイクル パターン I パターン II	_____		_____		_____		_____		_____		_____
やる気度 (%)											
促進要因	学生 A	③⑥⑨	①③	①③	③⑥	③⑥	①⑨	③⑨	①⑨	①⑨	③⑥
	B	⑥⑨	⑥	③	⑥	③⑥	⑥	③⑥	③⑥	③⑥	③⑥
	C	⑥	⑥	①	⑥	①	①	①	①	①	①
	D	③⑥	②③⑥	③⑥	③⑥	①③⑥	⑨	①	①③⑥	②③⑥	①②③
阻害要因		C やっていくことの不安と自信喪失、D 実習中受持ち患者に拒否された	C 講義を聴いて難しく感じ苦痛	D 実習 A 実習で多忙 睡眠不足、B 文献検索が嫌い、C 卒研の理解不足	C 卒研の理解不足、D 実習が気になる	C 卒研の理解不足、D 実習記録	B 3 週間実習が休みでモチベーションが下がる、C 先が見えない不安、D 実習記録	C 実習への不安	A やることがなく何をしていたのか分からず、C 実習への不安	B 実習、C 実習、D 実習記録	B 実習、C 実習、D 実習記録
教員の観察内容		A でもやらないといけない難しそう、C 何が何だかわからない	B こういうステップで結果が出るのかな？	A 文献集まっている、C コミュニケーションについての文献集まっている	B やってみたいね、今まで言われてきたことが崩せたら良いね、C でも私の場合、尊敬言葉を使っても関係はとれたけどね	B 私たちが考えていたことと文献を調べたら否定された視点を変えよう	A B C D インターバルの今の時期に進めておこう	A C 遅くまでかかって研究計画書を作成した	C 「時間外にまで集まってやるなんて珍しいよ」と他の先生に言われた	B プロセスレコードで自分が見えてきた、D 面白くなってきたよね、実習につながる	D 疑問をそのままにしないで聞けるようになった、D 自分のやっていることに自信がもてる
主観的情報											
具体的行動		反応がない	講義を質問することなく聴いている	宿題について次回は資料をもとに話し合いたいとメモがある	やってきた宿題をもとに遠慮がちに発言している	看護場面での友達言葉について自発的に意見を述べている、活き活きしている	文献検索の結果考えを否定されがっかりしているが新たな疑問に向かって話し合いをしている	テキストをもとに自分達で進めている	雑談が少なくなる	看護実践をもとに自発的にデイスカッションをしている	記録から自己の関わりの変化に気づきうれしそうに表情

図1 「やる気」の変化と要因

卒業研究における「やる気」の要因分析 - 調査と観察による検討 -

7月12日	7月19日	8月4日	8月22日	8月31日	9月6日	9月13日	9月20日	9月27日	10月4日	10月11日	10月18日	10月25日
各自でデータの整理	データ整理の話し合い、表の作成	データ分析	論文作成に向けての役割分担	「はじめに」の検討、「研究方法」の検討	「考察」の検討	「はじめに」の検討、「研究方法」の検討	「結果」の検討、「考察」の検討	論文執筆	論文執筆	「結果」の検討	論文「連」の検討	論文「連」の検討
⑥ ③ ⑥	①⑥ ③⑥ ⑨	③⑨ ③⑥ ③⑥	③⑥ ⑥	③⑥ ①⑥ ⑨	③⑨ ①③ ③⑥	③⑥ ①⑥ ②④	①⑥ ③⑥ ④	③ ①③ ③④⑥	①⑨ ①⑥ ①③ ③	③⑥ ①⑥ ③⑥		
A何をしていたのか分からない、B夏休み、C表の作成がうまくできない、D夏休み	A夏休みバイト、C表に自信がない、D夏休み	A何をしていたのか分からない、バイト、B夏休み、C夏休み、D国試勉強	Aバイトでストレス、B夏休み、C夏休み、D国試模試が近づいている	A国試模試、C国試模試、Dもうすぐ実習が再開する	A実習で休みがない、体調不良、B実習再開、C実習記録、D実習記録	B実習記録、C実習記録、D実習が気がかり	B実習記録、精神的疲労、C実習記録、D実習	Aやることが見つからない、B体調不良、C実習記録、D患者とコミュニケーションが図れない	A実習が忙しく卒研をする暇がない、体調不良、寝不足、C論文未完成の不安、D眼精疲労	A実習が忙しく卒研をする暇がない、体調不良、C論文未完成の不安、D眼精疲労		
Cここに来たら何も否定されないよね、ここにラックスできる	C患者との関係の中で自分の存在を評価した意味をもつて患者を見た、D患者が私を待たせてくれる、患者に刺激を受けたから私も頑張ろう、B、C、D研究以外のことも話せるね		Aワープロは得意だから私が打てあげる、B、Dまでの段階になってこれ良いのか少し不安		D考察がどういうことか分からない		A実習が忙しくて出来ない、2週間の実習は特に大変、B、C、Dインターバルの時期に完成させよう、来週は自分達でやってみる、D Aさんでやろう	A、C昨日から全員が夜に集合してやった、課題が全部出来ていない	Cひとつずつ検討するよりは分担したところをまづ先生に見てもらってコメントをもらう方がいなるべくなら完璧にしたい			
B時間外も質問に来る	躊躇せず自分の思いや考えを表に出している、学生間でも他者の意見に対する否定的言動が聞かれない	表をもとにB、C、Dは活発な意見交換をする、Aは口数が少なく疲労感が感じられる	自分達で話し合いをして役割を決定する	A、Cは個人作業、B、Dは意見交換しながら論文作成する	A討議に関心を示さない、D欠席全員が「疲れている」と言い進まない	D体調不良、課題が出来ていない	B早退、C DはAの発言に同意を示す	C体調不良で早退	C受診の為早退「はじめに」「結果」が出来活気が出てきている			

注1) 教員が「やる気がない」と観察した日

注2) やる気を促進した要因(選択項目)

- ①学習の成果を実感した ②援助の成果を実感した ③グループメンバーの態度・対応やメンバーとの関わり ④患者・家族の態度・対応や患者・家族との関わり
⑤臨床スタッフの態度・対応やスタッフとの関わり ⑥教官の態度・対応や教官との関わり ⑦体調 ⑧実習以外の気がかり ⑨その他

卒業研究日	4月19日	4月26日	5月17日	5月24日	6月7日	6月21日																																																																													
卒業研究進度	講義 卒業研究の目標等	講義 看護研究の概要	宿題の取り組み	宿題の検討	「知りたいこと」の話し合い、 「看護場面での敬語」について 文献検索	「結果」の検討																																																																													
実習サイクル パターンⅠ	————— 老年看護Ⅰ —————		————— 成人看護Ⅰ —————																																																																																
パターンⅡ	————— 成人看護Ⅰ —————		————— 成人看護Ⅱ —————																																																																																
やる気度 (%)	<table border="1"> <tr><td>100</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>90</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>80</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>70</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>60</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>50</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>40</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>30</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>20</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>0</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>						100							90							80							70							60							50							40							30							20							10							0						
100																																																																																			
90																																																																																			
80																																																																																			
70																																																																																			
60																																																																																			
50																																																																																			
40																																																																																			
30																																																																																			
20																																																																																			
10																																																																																			
0																																																																																			
促進要因 (選択, 記述)	やる気を促進した要因 (選択項目) ①学習の成果を実感した ②援助の成果を実感した ③グループメンバーの態度・対応やメンバーとの関わり ④患者・家族の態度・対応や患者・家族との関わり ⑤臨床スタッフの態度・対応やスタッフとの関わり ⑥教官の態度・対応や教官との関わり ⑦体調 ⑧実習以外の気がかり ⑨その他																																																																																		
阻害要因 (出来事記述)																																																																																			

**Factors Related to the Motivation of Student Nurses
in their Graduation Research
—From an Investigation and Observations by Teachers—**

Masako NAGASAKI and Atsuko WAKASAKI

We have analysed factors that affect the motivation of junior college nursing students in their graduation research based on an investigation among the students and observations made by teachers. The results showed that those factors promoting motivation were “Interaction”, “A sense of ability” and “Self-awareness”. Factors that negatively influenced motivation were “Field practice”, “A shift of interest”, “Vacations”, “Bad health”, “A diminishing sense of self-awareness” and “Lack of Knowledge”.

A comparison of the students’ motivation and elements observed by teachers as contributing to motivation reveals that teachers perceive a positive verbal response and a spontaneous and constructive attitude as motivation. This positive verbal response and spontaneous and constructive attitude of students observed by teachers was in accord with the students’ motivation revealed by the investigation. However, latent forms of motivation among students which were more difficult to perceive from outside were judged by teachers as a lack of motivation.

Key Words : Graduation Research, Motivation, Factors, Nurse Students, Nurse Teachers.